

「平成30年度伐採・造林一貫作業研修会」の開催

1 はじめに

人工林伐採後の再造林を促進するためには、初期の造林コストを低減させることが必要となっており、そのコスト低減方法の一つとして伐採から造林までの一貫作業があります。

盛岡広域振興局管内の各林業事業体においても、一貫作業に取り組んでいるところですが、事業体により様々な作業方法(システム)があることから、一貫作業の取組み事例視察及び意見交換等を行い、技術の研鑽を図りました。

2 研修会の概要

研修会は、平成30年10月31日に盛岡市蕨川地区を会場に、室内研修と現地研修を行い、林業事業体や市町村職員など、33名が参加者しました。

室内研修の講義では、一貫作業による経費削減のほか、低密度植栽、コンテナ苗植栽や下刈の省力化についても、認識を新たにしました。特に、カラマツのコンテナ苗を植栽した場合、下刈を初期2年間の実施だけでも、競合植生より樹高が高くなるとの林業技術センターの成果には、参加者が興味を示していました。

また、現地研修は、県有模範林大志田事業区で県が発注している一貫作業地で行い、グラブを使用した機械地拵え作業状況を視察しました。

参加者からは、「機械地拵えにおける枝条の集積方法は、縦置き(等高線に対して直角方向)が作業しやすい」、「きれいに地拵えしすぎるとコスト高になる」などの意見がありました。



機械地拵えの作業視察状況

また、下刈の省力化を目的として、枝条を活用した20m四方のマルチング区画が試験的に設けられていたことから、その状況についても、視察研修しました。

参加者からは、「被覆効果による下刈りの省力化が期待できる」、「コンテナ苗植栽時の穴あけや苗木周囲の踏み付けが出来るかが懸念される」などの意見がありました。



枝条を活用したマルチングの状況
(赤枠は研修後に植栽したカラマツ苗木)

3 おわりに

近年の木材需要が増大している中、伐採・造林一貫作業を含めた低コスト施業は、再造林を促進するうえで必要不可欠であることから、管内林業事業体の作業コストの低減について、今後も支援していく予定です。